

STORY-LISTENING AND GUIDED SELF-SELECTED READING

物語を聞くこと・指導付きの自主的な読書

A Letter to Parents

Beniko Mason and Stephen Krashen

外国語（英語）教育における私たちの目標は、「自主的に」習得できる学生を育成することです。つまり、もはや教師を必要とせず、自分たちで上達し続けられるところまで学生を導くことです。言い換えれば、私たちの目標は、学生が在学中に英語(外国語)を完璧に使いこなせるように導くことではなく、学校を卒業した後も継続して、高いレベルの英語(外国語)能力に確実に到達できる方法を教えて、その基礎作りすることです。

まず言語習得について私たちが知っていることについて説明し、それから、目標を達成するのに有望である2つの方法を提示します。

言語習得はどのように行われるのか

過去 40 年間にわたる研究により、次のことがわかっています。1) 聞いたり読んだりしたものを理解したとき、つまり「理解可能な言葉のインプット」を受け取ったときに、私たちは言語を習得します。2) 学生は、英語（外国語）習得をうまく進めるために、多彩で、非常に興味深い、理解可能な言語のインプットを大量に受け取る必要があります。3) 第二言語習得者は第一言語習得者と同様の段階を通ります。4) 言語を習得する事と、その言語について学習する事は同じではありません。5) 意識的に学んだ言語の規則は、実際のコミュニケーションには役に立ちません。通常、文法や語彙の筆記試験を受けるとき、そして時には文章を編集するときのみ役立ちます。そして、6) 学生は外国語の授業で、不安や脅威を感じて、防御体制に入るべきではない、ということです。

最適な指導

私たちの外国語習得プログラムは、最新の言語習得理論に基づいた方法論を使用しています。使用されている方法はインプットベースです。つまり、豊かで非常に興味深い、理解可能なインプット、学生が聞いていることを「忘れてしまう」くらいに興味深いメッセージを学生に提供することに重点を置いています。研究に次ぐ研究により、これらの方法を使用する学生は、従来のクラスの学生よりもはるかにはやく言語を習得していることが確認されています。ここでは、最適なインプットを提供する2つの方法、物語を聞く事と物語を読む事に焦点を当てます。

STORY-LISTENING

物語を聞くことから始める

私たちのプログラムは、物語を聞くことから始まります。Story-Listening では、興味深い物語、時空を超えて語り継がれてきたおとぎ話や民話などを教師が話します。教師は、学生がすでに知っていると思われる言葉を主に使って物語を話します。

学生が完全に理解していない単語やストーリーの部分がいくつかあるでしょう。その時、教師は、学生が知っているであろうと思われる英語(外国語)の言葉を使って、登場人物の描写や説明をしながら文脈を追加し、黒板に絵や字を書いて、時折学生の第一言語を使用するなど、さまざまな種類のサポートを利用しながら、学生が英語(外国語)で聞いているストーリーを理解できるように工夫します。学生の背景知識なども利用します。このようなサポートを活用することで、学生は話の内容を理解しやすくなります。繰り返しますが、言語の習得は、生徒が聞いたり読んだりしたものを理解した場合にのみ可能です。

はるかに低いコスト

Story-Listening には高価な教材は必要ありません。ストーリー・リスニングには教科書やワークシートも必要ありません。著作権フリーの物語をインターネットからダウンロードしたり、図書館で本を借りたりすることができるからです。図書館がない場合、教師はインターネットから適切な著作権フリーの物語を探し、教室の図書用に収集することができます。

授業では他に何が行われるか？

話を聞くことはプログラムの初期段階では中心であり、学生がさらに上級になってもプログラムの重要な部分となります。時折、ゲームや歌、その他の活動を行うことで、教室に多様性をもたらすことができますが、歌やゲームが授業時間の大半を占めるべきではありません。このような種類のアクティビティには、最適な言語習得に必要な理解できる多彩なインプットが豊富に含まれていないからです。

評価

学生と教師が共通言語を話す外国語のクラスでは、学生は聞いた話のいくつかを母国語で簡単に要約するよう求められることがあります。これにより、学生が何を理解し、何を理解していないのかが教師にわかります。まだ書くことができない若い生徒の場合、さまざまな方法で物語をどの程度理解したかを示すことができます。これらの学生が書いた要約は、教師の指導に関するフィードバックとして機能し、また、学生の進歩を追跡するのに役立ちます。

STORY-READING

物語を読む

理解できる面白い話をたくさん聞くことは読書につながります。これは、自分で選んで読む楽しい読書への「導管」であり、少なくとも一部の本物のテキストを理解できるようにするのに役立つ能力を提供します。

読書は、学生が理解しやすく楽しいと感じられるように、面白いと思われるテキストを用意して、徐々に導入されます。私たちの目標は、楽しい読書習慣を確立することです。すると、卒業した後も言語の継続的な進歩が保証されます。

Guided Self-Selected Reading

指導付きの自主読書

私たちは、「物語を聞くこと」と「本物の」本を読むことの間で中間段階が必要であると感じています。私たちはこれを GSSR または Guided Self-Selected Reading と呼んでいます。「指導」は、文章の難易度や読者の興味に応じて、学生が読み物を選ぶのを助けるという形で教師から提供されます。

GSSR では、学生が自ら選択した読書家になるまで、学生が読みやすく楽しめる本を教師が紹介します。学生が読書中にどのような経験をしているかを知るために、読んだ本が楽しかったかどうかに関する情報は、教師が次にどの本を勧めるかを決定するのに役立ちます。読書後、学生は、その本の内容、感想、難しさを、簡単に説明する短いレポートを記入します。

一部の学生は、1 から 2 学期間で、ネイティブ・スピーカーによって書かれたネイティブ・スピーカー向けの「本格的なレベル」に達することができます。しかし、すべての学生がこの段階にすぐに到達できるわけではありません。GSSR に 3 年間も在籍する人もいます。これは、学生がほぼ即座に挑戦的な読書に飛びつく従来のコースとは大きく異なります。

GSSR の目標は、学生が完全に自分で読書を選択できるようになることです。このレベルに到達したら、私たちの仕事は終わりです。学生たちは良書を楽しみながら読書し、自分たちで上達していきます。

検証結果

ストーリー・リスニングの効果を評価した研究によると、不安のない教室で最適な（言葉が豊かで、面白く、理解可能な）インプットを大量に提供することは、言語スキルの発達に効果的であるだけでなく、非常に効率的であることが示されています。つまり、生徒の単元あたりの習得量が増加します。従来の方法よりも時間（例：授業時間あたり）が短縮されます。

同様に、研究に次ぐ研究により、読み書き、語彙、文法の能力を開発する上で、楽しみながらする読書が優れていることが確認されています。楽しい読書の量は、言語標準テストにも好成績をあげます。

簡単な準備

「教師の質を高める緊急の必要性についてのいかなる敬虔な宣言よりも、興味の高い絵本を豊富に提供することの方が、英語学習を向上させるためのはるかに実現可能な政策である。」(Francis Mangubhai & Warwick Elley (1982) ESL の促進における読書の役割、言語学習とコミュニケーション、The Role of Reading in Promoting ESL, Language Learning and Communication, 1(2): 151-161)。英語の図書室の作成は、刻々と変化するコンピューター・テクノロジーを扱うよりも簡単で、低コストです。

言語を習得するために大量の会話は必要ありません。大量のインプットが必要ですが、それは簡単に提供できます。

この配布資料のアイデアを裏付ける研究の多くは、次のリンクから無料で入手できます。

- ◇ www.sdkrashen.com (Stephen Krashen)
- ◇ <http://web.ntpu.edu.tw/~lwen/publications.html> (Sy-Ying Lee)
- ◇ <http://backseatlinguist.com/blog/> (Jeff McQuillan)
- ◇ https://c021.wzu.edu.tw/ezcatfiles/c021/img/img/1460/89013_1.pdf (Ken Smith)
- ◇ <http://beniko-mason.net> (Beniko Mason)